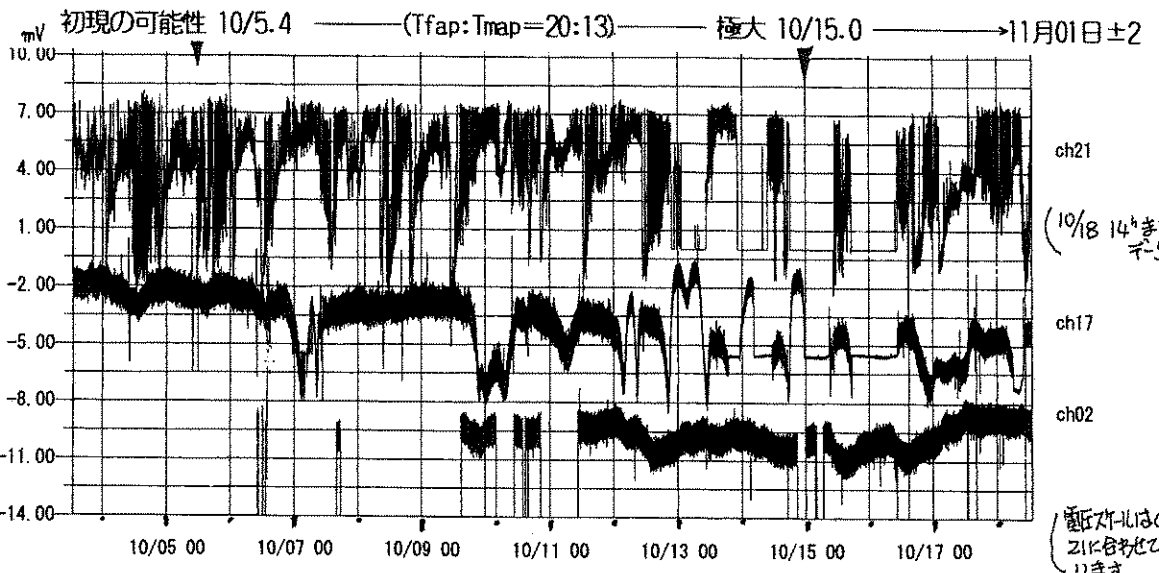


原稿校了後の前兆変化について

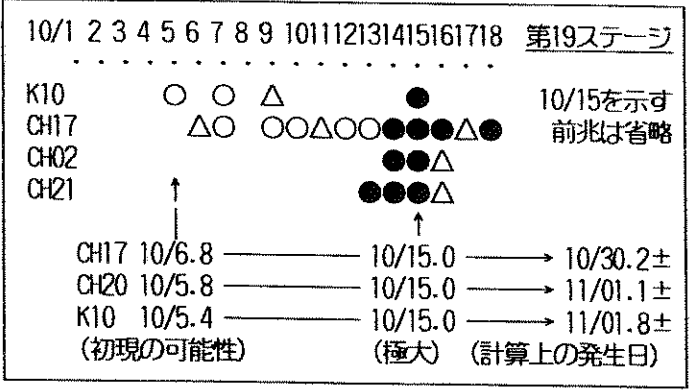
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 10/18 CH17系特異再出現 CH21特異継続
→10/19発生の可能性否定→10/15極大認識で11/01±の可能性有

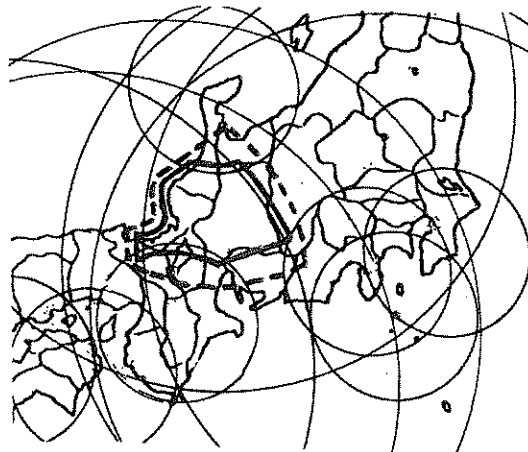
2008年07月より長期継続する震源が浅い陸域の日本列島地殻地震が示唆される前兆=No.1778は、第18ステージが10月16日±を示し、10月15日に極大が観測されたと認識されます。10月15日の極大は第19ステージとなります。このような10を越える前兆群ステージが出現したのも、1995年の本格観測開始以来今回が初めて。



10月15日を中心に糸状特異が出現したCH17も10月16日夕刻以降糸状特異の再出現も無かったため、早い発生の可能性も考慮し、10月15日極大に対する初現が、10月12日であった場合を仮定して、10月19日発生の可能性も示唆されました。但し、この場合は、Tpp(静穏期)が約24時間程度と計算されるため、本日10月18日の午前中に静穏化することが求められていました。しかし、上基線波形のとおり、そのCH17に本日18日午前中に糸状特異が再び出現し、CH21特異も継続出現していることから、近々での発生の可能性は否定されることになります。次に早い場合の推定としては、右図に単純化したとおり、10月05日が初現の可能性。極大は10月15.0日として計算しますと、11月01日±2の可能性が計算できます。この場合は10月27~28日頃に前兆が終息する可能性が示唆されます。これを確認必要。



- ◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域
大線領域内付近=可能性考え易い推定領域
(火山帯近傍地殻地震前兆が関連がある場合には、
ある程度火山帯に近い領域の可能性が示唆される
(白山・御岳・乗鞍等火山周辺領域の可能性も有)
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：現状考え易い可能性=11月1日±2
(※前兆完全終息時点で計算し修正予定)
- ◇推定地震種：震源の深さ30km以浅の陸域
日本列島地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)



昨日夕刻段階では、前兆が静穏傾向となっていたため、今月下旬迄前兆が継続出現することは考え難いとして最も早い場合の可能性として、10月18日昼迄に前兆終息が観測された場合は、10月19日発生の可能性が否定できないことを報告致しました。ご心配をおかけし申し訳ございません。今後を観測し、続報させて戴きます。

※他：別の巨大地震が推定される前兆は観測されておられません。